

令和3年度宮城県立高等学校入学者選抜審議会 第3回専門委員会 記録

令和4年2月16日（水）14：00～16：00

Google Meet によるオンライン開催
県行政庁舎16階 教育庁会議室

＜審議会委員＞

田端 健人 委員長，清水 祐子 委員，西條 和也 委員，葛西 利樹 委員，尾形 裕 委員
（欠席：河本 和文 委員，浅野 直美 委員，高橋 賢 委員）

＜県教育委員会及び仙台市教育委員会＞

遠藤 秀樹 高校教育課長
春日川 孝 仙台市教育局学校教育課長

事務局	（資料の確認）（公開の確認）
	（開会）
高校教育課長	（高校教育課長あいさつ）
事務局	（委員長 司会進行開始）
委員長	本日はWeb会議の形での委員会となるが、よろしく願います。 まず、報告について、事務局から説明願う。
事務局	（事務局より説明）
委員長	報告に感謝する。説明があったことについて、質問があれば、願います。
	（質問・意見なし）
事務局	では審議に移る。引き続き事務局から願います。
事務局	（事務局より説明）
委員長	報告に感謝する。それでは、「1 アンケート調査の実施」について、御意見を願います。いかがか。 対象の高校3年生というと、初めてこの入試制度を経験した学年ということになるか。
事務局	その通りである。
委員長	高校3年生は、どのくらい覚えてくれているかということもあるかと思う。中学3年生は調査しなくて良いか。
事務局	まだ、受験していない。調査が5月となると、これから本格的に入試について知る時期であると思われるので、まだ実感が湧かないのではないか。実際に受験を経験した生徒を対象として考えていたが、中学3年生も含めたほうがよいか、そのような点も含めて、御意見等があればいただきたい。
委員長	いかがか。 抽出する学校について、県の地域を縦にとり、校種、高校の種類を横にとって、極力満遍なく母集団を反映するという計画デザインで、このような学校を選んだということだが、委員の先生方の目からご覧になって、何か偏りとか、感じることはない

	か。尾形委員お願いする。
尾形委員	<p>例えば、15ページを見ると、「高校の入試説明を聞いてどうだったか」という項目もあるので、新中学3年生については、まだ不十分な部分があると思うので、計画通り、高校1年生から3年生ということで、よろしいのではないかと思います。</p> <p>あともう一つ、5ページ、6ページであるが、例えば、北部地区だが、高校の数として普通科が結構ある。本校、築館高校は4クラスなので、母集団として、もう少し大きいところでも良いかと思ったり、もしくは二つの高校を選んでよいのではないかと個人的に思ったりもした。</p>
委員長	発言に感謝する。事務局いかがか。
事務局	今のご意見については、学校数を多くするのもどうかと考えていた。一つの枠に一つの高校という考えで、最初設定していたので、確かに学校数、規模等を考えれば、二つの高校というのものもあるかもしれない。それについて改めて検討させていただければと思う。
委員長	西條委員お願いする。
西條委員	<p>学校数もそうだが、例えば、この抽出された学校は、固定というわけではなくて、例えば、翌年は別な高校で実施するなど、ローテーションを組むという形で行うと、万遍なく何年後かには全ての学校を網羅して検証できるのではないかと思った。</p> <p>それから、対象の生徒であるが、次年度の中学校3年生となると、学年懇談会等で制度について説明は受けているが、やはりまだ実感は持っていない時期なのかなというように考えている。</p>
委員長	<p>発言に感謝する。今、2人の委員の意見からすると中学生は、対象にしなくてもよいというのが、無難な判断だと思う。</p> <p>もう1点、毎年実施するという点、ローテーションについてはどうか。</p>
事務局	実施回数についてはまだ、そこまでの検討ができていなかったもので、その点を詰めていきたい。もし毎年実施するのであれば、確かに毎年同じ学校という形ではなく、別の学校にということも考えられる。もう少し検討させていただければと思う。
委員長	あとはこの検証というものの意味合いからして1回で一定程度の検証ができればよいという考えもあるか。
事務局	そういったところもあり、まだ詰め切れてない部分もあった。そこも併せて考えさせていただきたい。
委員長	それから、中学校、高等学校については、悉皆で全学校に答えていただくということによろしいか。
事務局	その通りである。
委員長	<p>他いかがか。よろしいか。</p> <p>では、次の「2 アンケート調査の内容」の「(1) 調査の観点」について事務局お願いする</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>説明感謝する。資料が結構長いページにわたっている。目を通すのに、やや時間がかかるかと思うが、いかがか。御意見があれば、お願いしたい。</p> <p>清水委員お願いする。</p>
清水委員	<p>気づいたことを少し確認させていただきたい。</p> <p>7ページで、3点ほど気になったのだが、こちらに書いてある観点が、具体の質問事項の方に、紐づいているので、照合してみると、文言が微妙に違っていたりするので、それを合わせて話をした方が良いかと思う。</p> <p>まず確認だが、○の2つ目、学習意欲の喚起や学習習慣の形成のところである。ここに○が二つあるが、上から読んだときに、「中学校での学習指導に役立ってい</p>

	<p>るか」というところで、ここの「役立つ」という意味を、どのようにとらえるのかと思った。</p> <p>例えばだが、その上の・の「生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の形成に繋がっている」は、他に何かを関連付けて聞く項目なのか。</p> <p>例えば、学習することの必要性を、子供たちにもたせられるというか、そういうようなことを聞いていくのか、というように少し戸惑った。</p> <p>ここを、具体のアンケートの13ページに、中学校対象の質問項目があるが、その⑥を見てみると、「学校生活の充実」というように、学習指導から学校生活の充実というように、観点が具体の調査項目になっているところで、その文言がずれてしまっているところはどうかと思った。</p> <p>それから、「入試日程を一本化したことの効果について」だが、このくくりの中の一番下、「追試験の導入」は、これがこの項目の中に入って良いものなのかと思っていたが、アンケート項目を見ると、独立して聞いているので良かった。</p> <p>そして、3点目。一番下の「入試事務について」だが、「入試日程の一本化により入試事務の効率化に効果はあったか」の「入試事務の効率化」については、「事務量の軽減」と言った方がずっと入るのではないかと思う。事務量の軽減というのが適切な言葉かどうか分からないが、「効率化」は微妙に違ってくるのではないかと思う。</p> <p>問いがわかりやすい方が、答える方もスムーズに答えやすいのではないか。ここで少し気になったところが、この3点である。</p>
委員長	今の3点について、事務局いかがか。
事務局	<p>「中学校での学習指導に役立っている」であるが、確かに上の記載との重複があり、うまく整理ができてなかったと思う。今のご意見をいただいて、さらに整理をさせていただければと思う。</p> <p>それから、「追試験の導入」について、入試制度の変更点ということで、このくくりで良いかということでは難しいところではあったのだが、この中で入れるとすると、ここしかないと考えていた。再度考えたい。ただ、質問項目としては、この追試の制度をどのように受験生が考えているのか、インフルエンザや病気であっても受験機会が確保されているといった安心感があるのか、実際に受けた生徒が少なくとも、制度として追試験があることをどのように感じているのかといった部分で、受験生や保護者たちにとってはどうなのかということを知りたいと考え、質問項目には入れた。入試制度の入試日程の一本化という大きいところであったので、この観点の中に入れてあったが、その表現について検討させていただきたい。</p> <p>それから、入試事務の効率化と書いたが、御意見をいただいたような形で表現した方が分かりやすいということであれば、さらにこれから検討したい。</p>
委員長	<p>13ページの⑨を読んだときに、「事務負担の軽減になっているか」ということが聞かれているように伝わってこない、少し難しい表現になっているという印象を私も受けた。</p> <p>それから⑤だが、むしろ委員の先生方に伺いたいのは、学校側で追試験があることで、生徒や保護者の安心感に繋がっているかどうかを手応えとして判断できるか。追試験が、生徒、保護者の安心感に繋がっているというふうに、現場サイドでは感じられるものなのだろうか。</p> <p>葛西委員、お願いします。</p>
葛西委員	感じられるかどうかといったことを、何でもってとらえるかという問題はあるけれども、受験機会の確保といったところからすれば、容易に安心感に繋がっているだろうと推測されるという感じだと思う。
委員長	御意見に感謝する。

	他に御意見はないか。西條委員願います。
西條委員	一つ前に戻り、中学校対象調査の⑨番のところ、先ほどから意見が出ていたのだが、私としては「受験指導」という言葉は残して欲しいという気持ちがある。というのも、業務自体は、前回もお話したが、中学校だと私立高校の受験指導で公立高校の志望校も進めるので、もちろん負担を軽減しているけれども、それよりも子供たちの受験指導というか、今までだと、合格した子と合格しなかった子が教室に混在していたものが、そのあたりの負担が中学校の教員の場合は軽減しているというところで、ただ事務整理だけではない負担減というのも中学校にはあるのかなというところで、私はこの部分は必要があるというように思った。
委員長	今の御意見を受けて、個人的には「事務負担」というのと「指導の充実」を分けた方が良いかもしれないと考えた。別々に聞いてみたいと思う。 それから、西條委員が話された、前期合格した人と合格しなかった人が一緒にいて後期に入ることの教室の空気の変化のような、そのようなところも実は聞きたい。それを解消するというのも、一本化に向けての課題の一つであったので、そういうのも盛り込んでいただければと思う。 また、指導の充実ということと結びつくのかもしれないが、授業時数の確保による学びの保障のような文言があっても良いのではないかとも思った。 事務局の方いかがか。
事務局	その意見についても検討させていただければと思う。
委員長	願います。他、いかがか。葛西委員願います。
葛西委員	先ほどの清水委員の御意見にまた戻るのだが、私も7ページの調査の観点のところを読み込んで思ったのは、先ほど御指摘があった学習意欲の喚起や学習習慣の形成のところの「中学校での学習指導に役立っているか」というのが、大きな項目では「進路指導について」の中に入っているというのが、すこし違和感がある。 なので、ここの「学習意欲の喚起や学習習慣の形成」の前に、大きな括弧として、「進路指導について」という項目があるのであれば、「学習指導について」という項目といったものを付け加えていただくと、違和感なく読めると思う。
委員長	御意見に感謝する。事務局の方としてはいかがか。進路指導だけではない、収まらない部分があると思うが。
事務局	進路指導、進路に関することで、学習が進路に繋がっていくということを考え、「進路指導について」という観点でまとめさせていただいた。
委員長	進路となると、入試ということになっていくと思うが、学習となるともう少し広くて、一本化の議論のプロセスの中で、現行の学習指導要領の主体的・対話的で深い学びのようなもの、アクティブラーニングというのを意識されていて、話し合い活動とかグループ作業にも授業時数がある方が良いというような話もあり、そういう話し合い活動というのは、ペーパーテストでは直にはなかなか評価対象が違うところもあると思うので、独立させるというところも検討してもよいのではないかと思う。 他に御意見いかがか。 あとは、質問項目としては、中学校で話題になったが、高校、それから生徒、保護者というところの、いろいろと御議論、御検討いただきたいところでもある。 それから13ページに戻ると、⑩から⑭については、質問項目までまだ落とし込んでないところがあり、毎年、実施日をどうするかということで、その前後で日程調整していき、土日を避けて、日程を作るため、本当にタイトな日程調整をやっていかなければいけない。そしてあと2年後か3年後には、やはり、土日をむしろ入れて実施した方がよいのではないかという議論が、入学者選抜審議会本体の会議の方で、議論になっており、その兼ね合いからの日程についてということを知りたいなというふう

	<p>に思っているところであった。</p> <p>なので、それを質問するにあたって、どのような文言がよいのか、アイデア等があれば、いろいろと出していただければ、今後検討していくための、大変大きなヒントになろうかと思う。</p> <p>その辺のところ、事務局の方から少し補っていただきたい。</p>
事務局	<p>それでは質問項目の方に入っているので、質問項目の説明もさせていただいてよろしいか。</p>
委員長	<p>お願いします。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明、感謝する。</p> <p>それぞれ、大事な項目にもなるので、議論の焦点を絞りながら、まずは学校に対する調査、13ページの中学校対象調査から話を順に進めて参りたいと思う。</p> <p>御意見いかがか。葛西委員お願いします。</p>
葛西委員	<p>中学校も高校もだが、共通選抜と特色選抜に関する設問が欲しいと思った。特に共通選抜、特色選抜の趣旨は理解できているか、また、それが中学生に説明できたかどうか。こういった項目について、ぜひ知りたいと思ったので、検討をよろしく願いたい。</p>
委員長	<p>御意見に感謝する。これも大事な部分だと思う。</p> <p>中学校に焦点化してと申し上げたが、関連するところがあると思うので、そこにフォーカスしながら、広く御意見いただければと思う。</p> <p>他にいかがか。清水委員お願いします。</p>
清水委員	<p>中学校対象調査を上から読んでいった。①から③は気にならずに読めた。④についてであるが、この「受験生の心理的負担」というところの取り方、このところをどのように取るだろうか。本当に人それぞれに出てくるのではないか、というように思った。</p> <p>例えば、心理的負担としては、前期選抜と後期選抜を一本化した方が「一発で行った方が平等であるし、不安が少ない」という受験生もいれば、「前期と後期という機会があった方がよかったのに」と思う受験生もいると思う。人によって不安が様々なので、中学校が学校として答えていくときには、この「心理的不安」の示す内容が重要になると思う。</p> <p>ここでは、文章表現で評価を取ることになると思うが、丁寧に見取るところが大切になってくるというのが1点。</p> <p>2点目は、これはこれからだと思う。⑥から⑦、⑧の文言の統一。何々にとって、何々の充実、役立っているとか、この⑥、⑦、⑧は様々なので、次のページの高校の文言と合わせていただくと、すっきりする。何々に役立っているというよりは、シンプルに「生徒の学校生活の充実に役立っている」という方が、すっきりくるという単純なところであった。</p> <p>そして、もう一つは中身についてである。次のページの高校の④は中学校にも欲しいと思った。この14ページの④だが、入試日程の一本化によって、生徒に対応する、向き合う時間の確保に繋がっているとすれば、これは教育的にとっても大事なところだと思う。なので、④の質問を中学校にもぜひ入れていただきたいと思った。</p>
委員長	<p>具体的な提案に感謝する。</p> <p>事務局の方いかがか。</p>
事務局	<p>確かに清水委員のおっしゃる通りだと思うので、そのようなところも含めてさらに精査をさせていただきたいと考えている。高校にある④の「生徒に対応する時間の確</p>

	保」というような書き方をさせていただいたが、中学校では⑦で、入試制度が「教育活動の充実」というすこし大きな枠に入ってしまった部分があるので、そういったところをさらに精選をして、わかりやすく、新たな形のものに作っていければと思う。
委員長	他にいかがか。それでは、先ほどからも話題になっている高等学校の方を少しフォーカスしながら、いかがか。葛西委員お願いします。
葛西委員	先ほどの共通選抜、特色選抜に関連するが、高校の方で、この入試を理解して適切に運用しているかどうか。そういったところがすごく心配されるというか、懸念があり、適切に各高校が共通選抜、特色選抜を適切に実施しているかどうかといったところを知りたいと思っているので、検討いただきたい。
委員長	高校側が特色選抜、共通選抜をしっかりと理解した上で実施しているかどうかというようなことか。そしてまた、それを二つの枠を設けることが、高校での学びに何か連動しているかどうかも含まれるだろうか。 事務局いかがか。確かに学校によっては、その特色との住み分けだとか、こだわりのあるところもあるだろうし、もうほとんどそこはこだわっていない学校もあるだろう。二つの切り分けについても理解の程度が違うかもしれない。いかがか。
事務局	結構難しいところがあると思うが、その理解というのは、こちらとしては、共通選抜、特色選抜も、その選抜方法を考える上で、そのあたりは理解をしながら、設定をされていると思うところではあるが、それについて、どのように聞けるのか、質問項目とすべきかどうか併せて検討させていただければと思う。
委員長	尾形委員お願いします
尾形委員	実際、特色選抜、共通選抜は、学校によって順番が逆であるとか、割合についても、学校でいろいろだと思う。それで、郡部の学校などは、定員割れの状態で、割れ具合によっては、二つの選抜方法両方で選抜したいが、実際片方しかできないという学校もあると思う。その辺を県の方としては、例えば、今現在把握しているのかどうか。把握してないのであれば、これを機会にその辺を把握しておいた方が、実際どういう状況で、この共通選抜、特色選抜が使われているかというのも見えてくるのではないかと思う。
委員長	事務局いかがか。まずは、把握されているか。共通と特色、各学校でどのくらい埋まっているか、埋まっていないか。
事務局	一応報告はいただいているので、そちらの方を確認するということになるかと思う。
委員長	2つの選抜を本当に機能させようというように考えるのであれば、それぞれの学校の充足率だとか出る資料の中に、どちらでどのくらい充足がしたかというようなデータも今後必要だと思う。そういったデータを見たことがないような記憶があるが、その辺いかがか。それを公表するものでもないか。
事務局	公表という形では考えてはいない。
委員長	もしかすると1倍を切っているところで、0.5倍とか0.4倍というところが出てきている現状だと、もう2つの選抜に切り分けることがそもそも機能しないところもあるのかもしれない。そのようなことは考えたことはなかったが。 その辺はいかがか。どのように押さえているか。 葛西委員お願いします。
葛西委員	本校の場合は、常に定員割れがということで、倍率もかなり低い状況で、本校の場合は、特色選抜をしてから共通選抜という形をとっているけれども、実際的にはそれがうまく機能しているかというところ、そうは言い切れないところがある。 また共通選抜をしなくても、特色選抜だけで完結してしまうというようなケースもあるので、そうすると、あえて共通選抜、特色選抜を設けるということについて、も

	う少し柔軟な対応というか、そういったことも、各校の実情に合わせてできるようになればよいのではないかという現場の先生方の声がある。
委員長	御意見に感謝する。事務局いかがか。 特色選抜と共通選抜というのは、かなり制度の根幹に関わってくるところでもある。すぐに答えるのが難しいのであれば、今後いろいろご検討いただければと思う。
事務局	この場合はすぐにお答えするのは難しいので、そういったところも含めて、どのように聞けるのかといったところも検討させていただければと思う。
委員長	根幹に関わる大事なご意見に感謝する。清水委員お願いする。
清水委員	今のところは大変難しい問題だと思う。特に高校対象調査の⑥に関係してくると思うのだが、受験生の資質・能力の多面的な評価ができていくかという、これは本当に難しい問いである。何を物差しにすればよいのか、主観的に答えて良いのか、どういうふうに聞いていけば、客観性が出てくるのかと思ったときに、今お話されたようなことが、つまり学校の特色及び求める生徒像に沿った選抜方法が機能しているのかや充足率はどうかということと一緒に考える前提でないと、聞けないのではないかと、今、話を聞いていて思った。
委員長	御意見に感謝する。 確かに、「学校の特色に沿った多面的な評価ができていく」に答えるためには、一本化によってそれができているのか、それとも、受験者数が少ないからそういうことがそもそもできなくなってしまっているのか、というような受験者の減という要因が加わってくると、結果のデータの意味合いが変わってくる。難しい問題である。
事務局 教育指導班 班長	この入試の検証については、1回や2回の実施では、なかなか行いづらいだろうということがあり、3回実施してから検証に入るということで進めてきた。 先ほどお話の中にも出てきた、いろいろなデータの分析についても、まだ着手をしてない状況である。それで、この制度変更した時に、前期後期から一本化にするということで、様々なアンケート調査、データに基づいて、この現行制度を作り上げて、令和2年度入試から、ようやくスタートしている制度である。この制度が実際、受験生とか高校とか中学校にとってどういう効果、成果をもたらしているのかという部分については、正直何もデータがない状況なので、今回まず手始めとしてアンケート調査をして、その実態を探ろうということで、この話にしているわけである。 それで、このデータと合わせて、試験の様々なデータ、先ほどの特色選抜の割合であるとか、実際に実施してどうなのかといったような部分については、このアンケート調査とあわせて見ていくことが効果的であろうというように、こちらとしては考えているところである。 そこで、まずはいろいろな課題は、もちろん入試を2回実施しているので、各学校、高校も中学校もおそらく出てきているのだろうと思っている。そもそもこの入試制度を作ったときには、定員割れを前提として作っていないので、そういう意味では、定員割れの結果によってもたらされているその弊害のようなものも確かにあるのだろうと思う。 ただ、そのあたりが実態としてどうなっているのかというところの、考えていく上でのそのベースとなるものがこちらにもないので、そこも含めて今回のアンケート調査によって、少し取り出せればと考えているところである。 それで、先ほどの質問項目の⑧から⑫までのところが、まだ細かい質問項目にまで落とし込めていないところがあるが、ここについては、どのような聞き方というか、何を聞いたら、こういったところの成果、効果のようなものが検証できるのだろうかというところが、こちらとしてはまだ迷っているところもあり、そこで今回は委員の皆様、いろいろアドバイスをいただきながら質問項目を、少し整理していき

	<p>いと思っているところである。</p> <p>今回お示ししたものがそっくりそのままアンケート調査の質問項目となるものではなく、これをベースに少し考えていただき、こういう聞き方ではなく、こういう言い方の方が答えやすいのではないかと、こういう聞き方をするとこういうことがわかってくるのではないかと、そういうところの御意見をいただけるとありがたいと思っている。実際、今この段階で、特色選抜と共通選抜が具体的にどういう成果があるのかというような話になってくると、正直、事務局としては何ら答えを持っていない状況なので、それは答えを出すために必要なデータを集めるという前提で、このアンケートを考えてもらった方が良いと考えている。大変申し訳ないが、今回のこのアンケートが何のためにやるかといった部分を考慮していただき、実際これを使って、具体の検証に入っていくというイメージで、我々として持っているところである。</p> <p>ということで、この一つ一つの項目について、先ほどあったように、例えば高校に入っている④を中学校にも入れた方が、こういう中学校での成果が見られる等、そのような御意見をいただくと、こちらとしては非常に助かると思っているところであるので、よろしく願いしたい。</p>
委員長	<p>基本的にそういう方向で検討していたと思う。そうすると今の高校の⑥は、何を聞こうとしているのか、もう1回理解し直したいと思うのだが。</p>
教育指導班 班長	<p>そもそもであるが、この新しい入試制度に変更したときには、その学校の特色をはっきり示して進めていくべきだということで、求める生徒像を各学校に作っていただき、それを一つの冊子として、中学校、受験生に提示をしている。その中で、共通選抜、特色選抜という二つの物差しで、入試を行っていくという制度になっているので、その中で特色選抜と共通選抜といったところが、ある意味その多面的な評価という話には繋がってくると思うのだけれども、そこが実際どうなのかという部分。要するに、示している特色選抜での選抜のやり方と、共通選抜での選抜のやり方と、いわゆる一つの物差しで見ている入試制度ではないというところがあるので、その部分の制度について、検証も深めていきたいと思っているところで、大元の考え方から、単純に文言を引っ張ってきたという質問項目になっている。</p>
委員長	<p>そうすると、これは一本化というか、一本化に伴ういろいろな制度変更によって、多面的な評価が今までよりもできているかどうかを聞きたいということか。</p>
教育指導班 班長	<p>前の制度では、前期選抜と後期選抜ということで、いわゆる、ある意味前期は自己推薦のような形の選抜の仕方であった。出願できる条件を設けて、その条件がクリアできているとその学校に出願でき、学力検査と様々な特色を基にした選抜であった。後期選抜は、ある意味これまで行ってきた、いわゆる学力検査を中心とした選抜、違う尺度となっていたものを、一本化することによって、単純にその学力検査だけの選抜ということではなく、そこに視点を変えた特色選抜と共通選抜という制度を二つ入れ込んだ。それで、一本化しているということになるので、要するに一つの尺度で選抜する制度ではない。そのあたりがうまく機能しているかどうかという部分になるかと思っている。</p>
委員長	<p>私の理解で言い換えさせていただくと、これまでは県の高校の方針として、特色化していくというのと、それから多面的に評価するということの2つが結構大きな柱になっていて、これまでの前期・後期でいくと、前期の方にその特色と多面性みたいなものを乗せていて、後期の方はいわゆる学力試験みたいな従来型だったと。それを一本化することによって、特色の方と多面的な評価の両方が、今までよりもできるようになりましたかということが聞きたい。こういう理解でよろしいか。</p> <p>確かにそう理解すれば、そのように読めてくるのだが、なぜすぐにはそういかなかったのか。</p>

<p>教育指導班 班長</p>	<p>そういう意味で、この質問項目がまだ練られてないのだと思う。そこは御意見を伺いながら、こういう聞き方がわかりやすいのではないかとすることがあれば、アドバイスいただければと思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>例えば、非常にシンプルだが、「新しい入試制度によって、生徒の資質・能力の多面的な評価ができています」というように聞いてもらった方が、或いは「新しい入試制度は、生徒の資質・能力の多面的な評価に繋がっている」というように聞いてもらった方が何か分かりやすい気がする。</p> <p>はい。委員の先生方がいいか。今の件でも、さらに付け加えてでも結構である。</p> <p>ここで、1時間を回ったところなので、10分ほど休憩を取りたい。15:18再開とする。</p>
	<p>(休憩)</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、委員の皆様も事務局も準備が整ったようなので、再開する。</p> <p>先ほどの、高校の⑥については、特色との並びでいくと②の後の方に、②と同じような文言で「新しい入試制度が、受験生の資質能力の多面的な評価に役立っている」というのが、一案としては分かりやすいかと思った。</p> <p>他、いかがか。</p> <p>①から⑦辺りで、無いようであれば、⑧から⑫、中学校の方とも連動するけれども、こちらの方を、少しアイデアを出していただくのがよいかと思う。</p> <p>まず、本試験については何を聞くのが良いか、何を聞きたいというか、何らかの仮説なり問題があつて、質問が出てくるということだと思うが、この本試験の日程が動くことに差し障りがあるか。動かさないで、土日決めても良いかみたいなことを聞きたいか。</p> <p>尾形委員、願います。</p>
<p>尾形委員</p>	<p>⑧、⑨、⑩については、その日程というか、ピンポイントに本試験とか追試験の日を聞いているように思うのだが、こちらとしては、合格発表までの全体としての窮屈感とか、その辺で答えたいという思いはある。したがって、その日程だけではなく、いろいろ込みで、例えば、何月何日から何月何日までは、合格発表だが、そこでここに本試験を入れて、ここに追試験を今年の場合は入れたけれどもというような聞き方で、⑧、⑨、⑩というような感じかと。窮屈感というあたりで全体として答えたいという思いはある。</p>
<p>委員長</p>	<p>全体の長さの問題か。何々から何々までの期間が、長いか短いかとか。しかし、割ける日程は幅が決まっている。どうしたらよいか。何を聞けばよいだろうか。おそらく、本試験から発表までの期間が長いか短いかと聞けば、きっと長いとなる。もっと早くに発表して欲しいとなるかもしれないが、それは物理的にできないとなる。追試験までの期間が長いですか短いですか、となっても、やはりもうぎりぎりのところで決めているものがある。もうほとんど動かせない。本体の入学選抜審議会で、案が3つ出ているが、1日これを上にするとか下にするとか、もうそんな幅までしか出せない。その上で何を聞くのがよいのか。</p> <p>個人的な理解としては、もう思い切って土日にも設定する、それへの抵抗感のようなもの。そうすると、日程をいつもずらしたりしなくても良いし、本試験から発表までとか、その間の追試験の時期など、ほぼほぼ、常に日にちで決まってくるので、どの世代も同じ条件で、いつも分かって心積もりができて臨めるという利点はあるけれども、土日の公共交通機関の問題であるとか、土日に出勤しなければいけない問題であるとか、いろいろなマイナスの効果もある。その辺のところ、そのプラス・マイナスを現場としてはどう評価するかみたいところが聞きたいかと、個人的に思ってい</p>

	たけれども、そうでもないか。
事務局	尾形委員が話された、日程の部分、入学者選抜審議会で1日を増やすのは難しいということがあったが、そういう日程のところ、選抜事務が安全で確実に実施できるかどうか、そういう日程、期間になっているかどうかといったところが、最初にこう考えていた観点、質問項目であった。確かに難しい部分である。逆に、ここを聞くことがどうなのかといったところも、あわせて、もしよろしければ御意見をいただければといったところもある。
委員長	葛西委員お願いする。
葛西委員	前回の委員会のときにも話が出たと思うが、私学の入試日程との兼ね合いといったところもあるかと思う。就学支援金制度が私学に導入されて、これまでの経済的などところでの公立が有利といったところがなくなってきて、私学の高校入試が2月の下旬に全部終わってしまうというところから、公立の試験の日程が従来通りの3月の下旬といったところまで、そうすると、もうその時点で私学に合格した生徒は、施設設備面でも同じ費用をかけるのであれば、特色のある私学の方に行きたがる。そういう生徒も、これから多くなってくのではないかというようなところから、それでは公立の日程を、各校ではどのように考えるかといったことも知りたいところである。例えば、日程を2月に思い切ってずらすとか、私学とあまり離れない日程で行うのが良いなど、日程のバランスのようなことについても知りたいと思う。
委員長	なるほど、そういう観点もあるか。他にいかがか。 他に特段御意見がなければ、これを入れるか否かも含めてご検討いただくのがよいか。或いは私学との関係で、大きくまた変える可能性というものを考えた質問項目にするか、また2月に移してしまうと、いろいろな問題も出てきそうな気もする。個人的には、その土日開催に対する意見を伺いたいところである。 では、次の生徒対象の方いかがか。葛西委員お願いする。
葛西委員	③の「高校入試学力検査は学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立ったか」という設問が、聞き方として気になった。これと入試制度の一本化との関連で、何を聞きたいのかといったところで、ちょっと焦点がぼけるのではないかと思うが、いかがか。
委員長	事務局いかがか。
事務局	観点の方で、学習意欲の喚起、学習習慣の形成の部分で、高校入試を目標にしたところで、学習意欲の高まり、学習習慣が身についたかという観点を設けさせていただいた。それによって、高校入試に向けて、学習を行ったこと、学力検査に向けて行ったことが、結果的に生徒たちの目標に向けての学習意欲であったり、学習習慣の形成であったり、そういったところに結びついているかどうか。高校入試そのものが、生徒たちにとっても生活や学習の面で役立っているかどうかといったところを聞きたいということで、このような項目を作らせていただいた。
委員長	一つは、その一本化の効果を聞きたいということで言うと、一本化がこれに繋がったということでもないと思う。やはり学力検査があることによって、勉強しなければいけないというのは、一定程度の学習意欲を、いやでも押し上げる要因にはなっていて、それは前期、後期の時でも一本化の後でも起こっていることなので、葛西委員が言われるように、アンケートの全体の目的、明らかにしたい目的からしたときに、これが意味を持ってくるかどうかということは、確かに疑問がないでもない感じか。 西條委員お願いする。
西條委員	この制度によつての学習意欲の喚起ということで、生徒に聞いたときに、生徒は、質問を見ればそれに従って答えるが、その入試制度に対する答えなのか或いは生徒数の減によって倍率が低下したことによる学習意欲というものなのか、生徒に聞いた時に、生徒は質問に沿って答えるだろうが、それが、こちら側が聞きたかったことに繋

	がるかどうかというのは疑問があったと思った。
委員長	どのように文言を変えたら良いか。何かアイデアがあれば願います。 西條委員、願います。
西條委員	資料7ページにウェブフォームのイメージがある。このところで、この高校入試の選抜方法を変更したときの意図等を頭のほうに載せておかないと、答えられないのではないかと思う。子供たちは変更の意図がたぶん分からないと思うので、こういう変更の意図があって変更された、または令和2年度からスタートしていると。その上でこの項目が必要になるかと思う。
委員長	一本化することで、どうやって学習習慣や学ぶ意欲を刺激しようとすることと関連してくることについて、制度設計上のロジックはどうであったか。もしかすると、これも前期、後期の弊害、前にも申し上げた、前期が受かっている人が非常に余裕で楽しんでいるというのが、後期を受けなければいけない人の学習意欲をそぐという、問題があったことを受けているのか
教育指導 班長	今、田端先生がおっしゃったようなところも、もちろん含まれているところであるが、平成29年の入選審答申「今後の県立高等学校入学者選抜のあり方について」の中身に基づいて制度変更をしている。要するに、その中でこの部分というのは、どういう話になっていたかということ、前の前期後期のところでは、中学生の学習意欲の喚起であるとか学習習慣の形成であるとか、その高等学校の期待する生徒像に沿った資質・能力の評価等に一定の効果がうかがえるという検証を以前の専門委員会のところでしていただいていた部分である。これについては、やはり、求める生徒像の提示の仕方とか、中学生が中学校生活を送る上で、目標みたいなものになって、中学生のやる気が引き出されているというような、そういった一定の効果があった。 ところが、先ほどおっしゃったように、前期で合格した生徒が、結局その後期で合格する生徒とのその学力差、やる気の違いといったところで、勉強しなくなるというような弊害もあり、そうなった時にその答申の中では、こういう一定の効果は生かしつつも、いわゆる後半の勉強しなくなるという部分を解消するために、制度を変えていかないといけないという話になったときに、できるだけ勉強する時間を後ろに取るということを考え、入試の日程については3月の中旬にすることが望ましいというふうに結論づけられている。その結果として先ほどの入試の日程とも絡んでくるのだが、3月初めに今回の新しい入試制度の日程を設定してからそういうところもあって、その中で、結局この学習意欲の喚起とか学習習慣の形成といった部分については、前の制度ではその一定の成果が見られていて、それをこの効果的なものとしては、次の新しい制度でも入れ込むべきだという答申に基づいて今回の制度設計がされているので、その部分がきちんと生かされているのかどうかということがここでは知りたいというわけである。
委員長	なるほど。何となく理解できた。 今まで、前の調査は学校にだけ聞いているので、その辺の阿吽の呼吸と肌感覚が先生たちにはあると。それを中学生に説明するとすれば、いろいろなバイアスが入って学習習慣とかモチベーションが変わってくるので、この制度がどれだけ自分に影響しているのかというところを判断しにくい。やはり西條委員が言うように何らかのロジックで、生徒たちに、伝えなければいけない。何を付け加えればよいだろうか。 前期後期のときよりも、一本化することによって、授業期間が1ヶ月ほど長くなったが、それによって学習のモチベーションなのか習慣なのか、学びは充実したか、その期間は学習を充実させる良い機会になったかのような。思いつきではあるが、そちらの方であれば、それをむしろこの今のその質問項目に読み替える。それを大人の側で読み替えるようなことでも良いかもしれない。

	<p>他にアイディア等いかがか。</p> <p>私はやはり、生徒に直に「こういうように大人の側で考えて、前期後期から一本化しました。前期後期のときにはこういうメリットがあり、こういうデメリットがありました。一本化すると、こういうメリットありますがこういうデメリットになりました。この変更はよかったと思いますか」と、ストレートに聞いて、どう高校生たちが回答するのかというのを見てみたらよいのではないかと思った。大人が考えて行ったところをきちんと伝えて、子供がどう評価するか、18歳成人の時代でもあるし、聞いてみたいと思った。今の意見について、事務局としてはいかがか。</p>
事務局	<p>前の制度を知らない子供たちに聞くのは難しいということもあるので、その聞き方、質問の作り方にもよるかとは思いますが、そこも含めてまた改めて御意見を伺いながら、考えてみたいと思う。</p>
委員長	<p>ぜひご検討いただきたいと思う。他にいかがか。</p> <p>では、時間も限られているので保護者の質問項目はいかがか。</p> <p>保護者の方も同じく、前期後期を経験された保護者もおられるかもしれないが、経験されないという方もおられると思うので、「前期後期の時はこうでした。メリット・デメリットはこうでした。」メリット・デメリットは一つか二つぐらいでいいと思うので、そこからもう十分想像できると思うので、「一本化してこういうふうになりました。この制度変更は良いと思いますか、評価しますか」のような形で聞いていただけると、とても参考になるかと思う。検討いただきたい。</p> <p>他にいかがか。</p> <p style="text-align: center;">(特に意見なし)</p> <p>もし、また何か気になることとか付け加えて欲しいこととかがあれば、メール等々で事務局の方に御意見願う。</p> <p>それでは次の議題の方に入りたい。3の今後のスケジュールについて、事務局お願いする。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明感謝する。スケジュールについていかがか。</p> <p>Webフォームということなので、入力の作業も大分軽減されて、すぐにグラフ化され、この辺はICTの発達のおかげだと思う。</p> <p>よろしいか。それでは予定していた審議事項については以上となるがそれ以外に確認しておきたいことはあるか。よろしいか。</p> <p>長時間にわたり、皆様からいろいろと御意見をいただいて、本当に勉強になり、質問項目、或いはその観点、ブラッシュアップのための大変貴重な御意見をちょうだいしたと思う。感謝する。</p> <p>以上をもって、今回の審議を終了する。それでは、今後の予定について確認する。事務局からお願いする。</p>
事務局	<p>御審議感謝する。</p> <p>先ほどの今後のスケジュールで説明させていただいたが、いただいたご意見の内容を元に、アンケート調査の内容、質問項目を完成させていきたい。改めて委員の皆様にもメール等で御意見を伺うので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いする。</p> <p>来年の5月に調査を実施して集計を行い、7月の入学者選抜審議会での報告という形でもって進めて参りたい。どうぞよろしくお願いする。以上である。</p>
委員長	<p>これから調査の実施に向けて準備を進めていただき、今日の御意見等を参考に、また項目をブラッシュアップしていただいて、調査の実施、結果のまとめ、報告をどうぞよろしくお願いする。どのような結果になるかを大変楽しみにしている。</p> <p>今回の一本化という改革が、それぞれの立場からどのように評価されるのか、大変</p>

	楽しみにしている。 それでは本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返りする。
	(専門委員会終了)